

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

いつもお世話になりありがとうございます。アンパイヤーの判定について教えてください。

高校県総体女子決勝での事例です。第1サービスが入りラリーとなりましたが、実際にはレットで正審も「レットでは?」と思いながら流してしまいました。そのポイントはサーバー側のポイントとなりましたが、レシーバー側の監督から「今はレットじゃないですか?」と質問があり、正審は「今はレットであり、第1サービスからお願いします。」という判定をしましたが、サーバー側の監督から、「それはおかしい。レットのコールはなかったし、質問があつてから今はレットでしたと変わるのはいり得ない。」と言われ、結局サーバー側(常勝チーム)のポイントとなり続行となりました。次の日に、関係者から私に問い合わせがあり、次のような返事をしました。

「アンパイヤーのレベルの問題はありますが、まずラリーを止めるべきであり、質問があつて正審がレットと再判定したのであれば、レットで続行すべきで、再判定への異議に対してはイエローカードの対象となる」と回答しました。それでよかったか疑問が残りましたのでご教示ください。

Answer

判定は公正かつ迅速に正確な判定を下すとともに、時機を失しないようにする。

このご質問は団体戦時のことでしょうか。それなら監督が質問していることに理解を示しますが、個人戦の場合はプレーヤーが質問をすることになっています。高校総体と言えども指導者がベンチに入ることによって、誤った目に見えない権力を行使することになりますので、ルールは守りましょう。アンパイヤーは生徒で、質問者は指導者と言うことになると、ルール上あってはならないことですが、余程のことがない限り質問のような事例では、生徒からは反論できないのが現状のようです。

アンパイヤーの判定区分の判定で、通常は判定の確認はボールの落下点の場合であつて、今回の様なネット上(空間)等で生ずる現象の確認についての判定は、ハンドブックの中では詳細が明記されていません。

今回の質問に対する解決のために考えられることは、ボールの落下点ではなくネット上(空間)での出来事で跡形は残っておらず、今更言っても確認すべき形跡はなくサインもコールも出来なかったのですが、このような場合次の2つの対応が考えられます。1つ目は質問を拒否する。2つ目はタイムをかけて、副審を呼んで質問の内容を含めて協議する。その協議の結果を、両者に説明し改めて正審から通告することになります。その後の問い合わせは異議とみなし、警告(イエローカード)を与えることになっていくでしょう。

結論として、判定はそのまま。アンパイヤーは判定の

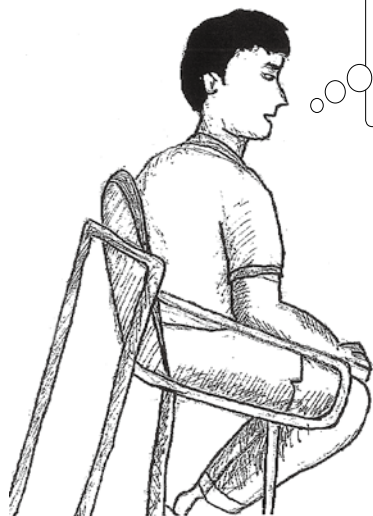
コールのタイミングを失し流した後、質問もなく終わることもありますし、今回のように質問がある場合もあります。ところで、本当にタイミングを失して流したのでしょうか。アンパイヤーは緊張があつたかも知れませんが、ネットにボールが触れたことに気付かなかつたとも考えられます。だからレットのコールやサインをしなかったのです。と考えるのは如何でしょう。アンパイヤーはボールがネットに触れてサービスコートに入ったと気付かないものを、「ボールがネットに触れた」と質問されても、レットだったとすることが出来ますか。同じ様にネットタッチをしたのではと質問されたところで、アンパイヤーが確認していないものをネットタッチには出来ませんよね。もし今回の様に判定をレットと訂正するならば、今後アンパイヤーが見てない(確認できない)現象をいかにも確認したように訂正することになり、大変なことになるように考えます。その点落下点については、後で痕跡を確認することが出来るようになっています(出来ない場合もあります)。今回のような場合には、あくまでも最初に判定したアンパイヤーの判定(判断)を尊重しましょう。

審判とは、プレーヤーに心配なく思う存分プレーして頂くための環境を整えるのが大事です。一度判定を間違えると、プレーヤーはまた大事なポイントの時、間違つたのではないかと心配しながらプレーをしなければなりません。これでは思い切つたプレーが出来なくなります。今回

アンパイヤーが見てないものは見えないと言いましたが、本当はネット際で起こり得るネットタッチを見抜けないアンパイヤーは未熟と言えます。多くの者がネットタッチを見ているのに、アンパイヤーが見えてないのは困ったものです。だから未熟と言っているのです。たかがアンパイヤー、されどアンパイヤーです。信頼される審判が出来るためには、ただアウト・インを見るだけでなく、色々なケー

スを予測しながらプレーを見守らねばアンパイヤーは務まりません。だから奥が深いのです。平素より、大会に向いて率先してアンパイヤーを買って出て、目を肥やし経験を積み、自信を持って審判台に上がれるようにしましょう。そして、ハンドブックを解説しましょう。

今後共、引き続き正しい審判が出来るよう生徒のご指導宜しくお願いします。



副審はレットの判定をしていないがレットでは...?

【関連規則】

ソフトテニスハンドブック

競技規則

第 26 条 サービスのレット

第 40 条 異議の申立て等の禁止

第 41 条 警告

審判規則

第 7 条 アンパイヤーの心得

第 13 条 判定の連携

第 14 条 再判定

ジュニア審判マニュアル

競技規則について

7. サービス

14. 禁止事項

17. 警告

審判規則について

1. アンパイヤーの任務と心得

5. プレーヤーから質問があったときは? (再判定)